

釧路市西部沿岸域の湿原における鳥類センサス調査について

貞國 利夫*

はじめに

釧路市は山林、河川や湖沼、湿原、海からなる多様な環境が備わっており、それに応じて様々な動植物が生息する。当館では釧路の自然環境に関する基礎的な情報を収集してきており、湿原は釧路ならではの環境として、特に力を入れて調査を進めてきた(釧路湿原総合調査1975)。しかし、その調査範囲の多くは内陸部を占め、沿岸部に主点を置いた道東海岸線総合調査(1984)においても把握できていない部分がみられ、特に鳥類相調査は不十分とみられる。鳥類相調査は対象地域に何の種類がどれだけ生息しているかを把握するもので、間接的にその環境の特徴や質を評価することができることから、重要な調査である。そこで、未調査地である釧路市西部に広がる沿岸域の湿原(キナシベツ湿原・馬主来沼)において、繁殖期の鳥類センサス調査を実施したため、報告する。

調査地・方法

キナシベツ湿原(北緯42.853661, 東経143.883379)は釧路市音別町直別にあり、海岸に接している。湿原内を石取沢川が蛇行しながら走り、直別川と合流して海へ流れ出る。湿原の東側は丘陵地で広葉樹林に覆われ、西側は牧草地となっている。湿原は比較的海岸性草本が多い。河川沿いや河川跡付近はスゲ類もみられ、ヨシはまばらで背丈は低いものが多く、中間湿原とみられる。

馬主来沼(北緯42.924121, 東経144.000084)は釧路市音別町の海岸付近にある沼で、周囲は湿原が広がる。沼は丘に囲まれ、西側から馬主来川が流入しており、沼の南側から太平洋へ流れ出ている。なお、波の影響で海岸の砂が堆積し、砂州として沼の流出口を塞ぐことがあるが、人為的な掘削等によって時折開放する。沼の周囲はヨシとスゲで覆われ、ヨシは密度が高く背丈も高いものが多い。丘はハルニレやミズナラなどの広葉樹林に覆われ、エゾマツやトドマツなどの針葉樹林も混ざる。なお、両調査地は環境省の「生物多様性の観点から重要度の高い湿地(略称:重要湿地)」に登録されている。

調査手順は次のとおり。①スポットセンサス(馬主来は広域のため2地点)30分間。②時速1~2kmにて徒歩によるルートセンサス。③スポットセンサスを30分間。観察範囲は片側50mとし、内と外に分けて記録、最後に集計を行った。調査地点やルートは図1, 2を、調査時間等は次の通り。

【キナシベツ湿原】日時:2024年6月5日午前3時47分~5時56分 天候:曇り 風:1~2m 踏査距離:1.4km

【馬主来沼】日時:2024年6月13日午前3時36分~6時35分 天候:曇り、霧 風:1~2m 踏査距離:2.8km

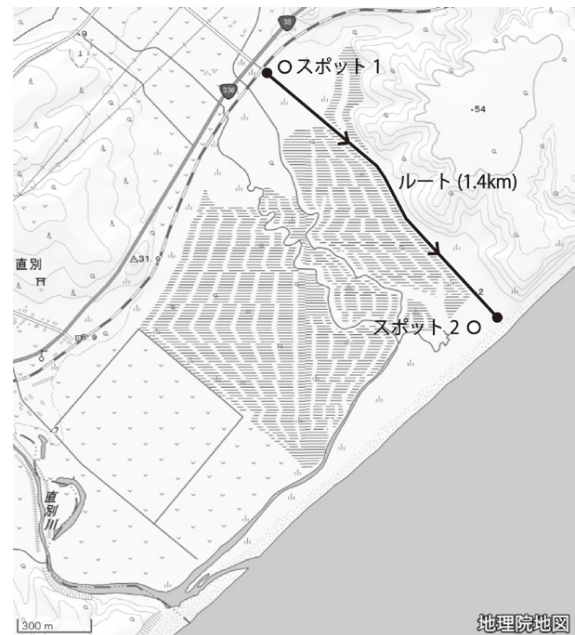


図. 1 キナシベツ湿原の調査地点とルート



図. 2 馬主来沼の調査地点とルート

結果・考察

キナシベツ湿原、馬主来沼、共に計33種の鳥類が記録された(表1)。

【キナシベツ湿原】スタート地点付近は、周囲が林で囲まれている箇所もあったことから、アカゲラ、ハシブトガラス、アオジなど、森林を好む鳥たちが多くみられた。また、ホザキシモツケやエゾニワトコのような低木が多い場所ではウグイスも多く観察された。海岸ではウミネコ、オオセグロカ

モメ、クロガモ等が観察され、海岸草原ではノビタキやノゴマがみられた。崖地や河川上空ではオジロワシ、海岸草原にて飛翔するハヤブサも確認でき、周囲は2種が好む環境であるため、周辺にて繁殖している可能性が考えられた。センサスを通して最も数が多かった種類はウグイス、次いでセンダイムシクイ、エゾセンニュウであり、センサス周辺の環境が比較的木々に囲まれている場所が多かったためと思われる。

【馬主来沼】全体的にヨシヤスゲ類中心の環境であるため、コヨシキリ、シマセンニュウ、マキノセンニュウ、オオジシギなどがみられ、クイナを確認した地点もあった。周囲に林がみられる付近ではシジュウカラなどのカラ類、センダイムシクイ、アオバトなどを確認でき、クマゲラの鳴き声がした場所もあった。センサスを通して最も数が多かった種類はヨシ原がある湿地を好むコヨシキリで、生息密度は1.11個体/haだった。釧路湿原においてコヨシキリが多

いエリアの一つであるクチヨロの0.55個体/haよりも高いため(貞國未発表)、馬主来沼は良好なヨシ原が広く残されているとみられる。なお、2番目に多かったのはウグイス、次いでエゾセンニュウだった。調査当日は霧が濃く沼の中を確認できなかったため、水鳥を探すことはできなかった。カモ類などの水鳥は春と秋の渡り時期に最も多くの種類が記録されるため、その時期の調査も必要であると考えられる。

なお、今回の調査でタンチョウは確認できなかったが、両調査地内では継続的に確認されており(NPO法人タンチョウ保護研究グループ 私信)、馬主来沼でもオジロワシの観察記録がある(白木 私信)。そのため、当地の鳥類相の全容を把握するためには、季節を変え、調査頻度を増やして実施することが求められる。

※ 調査に同行頂いた高島優氏、吉野智生氏に感謝申し上げる。

表1. キナシベツ湿原と馬主来沼にて確認できた鳥類(並びは日本鳥類目録改訂第8版による)

キナシベツ湿原		スポ1		ルート		スポ2		計
和名	学名	内	外	内	外	内	外	
1 マガモ	<i>Anas platyrhynchos</i>	0	1	0	0	0	0	1
2 クロガモ	<i>Melanitta americana</i>	0	0	0	2	0	5	7
3 ツツドリ	<i>Cuculus optatus</i>	0	1	0	1	0	0	2
4 カッコウ	<i>Cuculus canorus</i>	0	1	1	1	0	0	3
5 キジバト	<i>Streptopelia orientalis</i>	0	1	2	2	0	2	7
6 アオバト	<i>Treron sieboldii</i>	0	0	0	1	0	0	1
7 オオジギ	<i>Gallinago hardwickii</i>	0	1	0	1	0	1	3
8 ウミネコ	<i>Larus crassirostris</i>	0	0	0	2	0	6	8
9 オオセグロカモメ	<i>Larus schistisagus</i>	0	0	0	0	0	5	5
10 トビ	<i>Milvus migrans</i>	0	0	0	0	0	1	1
11 オジロワシ	<i>Haliaeetus albicilla</i>	0	0	0	0	0	1	1
12 アリスイ	<i>Jynx torquilla</i>	0	0	0	1	0	0	1
13 コガラ	<i>Yungipicus kizuki</i>	0	0	0	1	0	0	1
14 アカガラ	<i>Dendrocopos major</i>	1	2	0	0	0	0	3
15 ハヤブサ	<i>Falco peregrinus</i>	0	0	0	0	1	0	1
16 モズ	<i>Lanius bucephalus</i>	1	0	0	0	0	0	1
17 ハシボガラス	<i>Corvus macrorhynchos</i>	2	1	2	4	0	0	9
18 ハシボガラ	<i>Poecile palustris</i>	0	0	1	0	0	0	1
19 ヒヨドリ	<i>Alauda arvensis</i>	0	0	0	0	2	0	2
20 ヒヨドリ	<i>Hypsipetes amaurotis</i>	0	0	2	0	0	0	2
21 ウグイス	<i>Horornis diphone</i>	0	2	8	3	0	0	13
22 センダイムシクイ	<i>Phylloscopus coronatus</i>	1	0	8	2	0	0	11
23 エラムシクイ	<i>Phylloscopus borealoides</i>	0	1	1	0	0	0	2
24 コヨシキリ	<i>Acrocephalus bistrigiceps</i>	0	1	4	1	0	2	8
25 エラムシクイ	<i>Locustella amnicola</i>	0	0	7	3	0	0	10
26 シマセンニュウ	<i>Locustella ochotensis</i>	0	0	1	0	0	1	2
27 アカハラ	<i>Turdus chrysolaus</i>	0	0	0	1	0	0	1
28 ノゴマ	<i>Calliope calliope</i>	0	0	3	1	1	0	5
29 キビタキ	<i>Ficedula narcissina</i>	0	0	1	2	0	0	3
30 ビバタキ	<i>Saxicola stejnegeri</i>	1	2	0	0	0	4	7
31 ビンズイ	<i>Anthus hodgsoni</i>	0	0	1	1	0	0	2
32 カワラセリ	<i>Chloris sinica</i>	0	0	0	1	0	0	1
33 アオジ	<i>Emberiza personata</i>	0	1	6	1	0	0	8

馬主来沼		スポ1		スポ2		ルート		スポ3		計
和名	学名	内	外	内	外	内	外	内	外	
1 マガモ	<i>Anas platyrhynchos</i>	0	0	0	0	1	0	0	0	1
2 ハリオアマツバメ	<i>Hirundapus caudacutus</i>	0	0	0	0	2	0	0	0	2
3 ツツドリ	<i>Cuculus optatus</i>	0	1	0	0	0	3	0	2	6
4 カッコウ	<i>Cuculus canorus</i>	0	2	0	0	0	6	0	0	8
5 キジバト	<i>Streptopelia orientalis</i>	0	1	0	1	3	6	1	2	14
6 アオバト	<i>Treron sieboldii</i>	0	0	0	1	0	3	0	0	4
7 クイナ	<i>Rallus indicus</i>	0	0	0	0	0	1	0	0	1
8 オオジギ	<i>Gallinago hardwickii</i>	2	0	0	0	0	2	0	0	4
9 アオサギ	<i>Ardea cinerea</i>	1	0	0	0	0	0	0	0	1
10 アリスイ	<i>Jynx torquilla</i>	0	0	1	0	0	0	0	0	1
11 キツキツsp.	<i>PICIDAE sp.</i>	3	0	0	0	0	0	1	0	4
12 クマゲラ	<i>Dryocopus martius</i>	0	0	0	0	0	0	0	1	1
13 モズ	<i>Lanius bucephalus</i>	0	0	0	0	1	0	0	0	1
14 ハシボガラス	<i>Corvus corone</i>	1	1	1	0	0	2	0	1	6
15 ハシボガラ	<i>Corvus macrorhynchos</i>	0	0	0	0	10	1	0	2	13
16 ハシボガラ	<i>Poecile palustris</i>	0	0	0	0	1	0	0	0	1
17 シジュウカラ	<i>Parus cinereus</i>	0	0	0	0	1	2	0	1	4
18 ヒヨドリ	<i>Hypsipetes amaurotis</i>	0	0	0	0	0	0	3	0	3
19 ウグイス	<i>Horornis diphone</i>	0	3	1	3	6	7	1	2	23
20 センダイムシクイ	<i>Phylloscopus coronatus</i>	0	0	0	0	2	2	0	1	5
21 エラムシクイ	<i>Phylloscopus borealoides</i>	0	0	0	0	1	3	0	0	4
22 コヨシキリ	<i>Acrocephalus bistrigiceps</i>	0	1	3	3	27	23	1	3	61
23 エラムシクイ	<i>Locustella amnicola</i>	1	2	0	4	5	3	0	0	15
24 シマセンニュウ	<i>Locustella ochotensis</i>	0	1	0	2	0	0	0	1	4
25 マキノセンニュウ	<i>Locustella lanceolata</i>	0	0	0	0	0	2	0	0	2
26 アカハラ	<i>Turdus chrysolaus</i>	0	1	0	0	0	0	0	0	1
27 ノゴマ	<i>Calliope calliope</i>	1	0	0	0	0	0	0	0	1
28 コマリ	<i>Larvivora cyane</i>	0	0	0	0	0	1	0	0	1
29 ビバタキ	<i>Saxicola stejnegeri</i>	0	2	0	0	2	7	1	0	12
30 ベニマシコ	<i>Carpodacus sibiricus</i>	0	0	0	0	2	0	1	2	5
31 カワラセリ	<i>Chloris sinica</i>	2	0	0	0	4	5	0	1	12
32 アオジ	<i>Emberiza personata</i>	0	0	0	0	6	0	1	1	8
33 オオジュリン	<i>Emberiza schoeniclus</i>	0	0	0	0	2	1	0	0	3

参考文献

釧路市立郷土博物館. 1975. 釧路湿原総合調査報告書. 釧路市立郷土博物館, 釧路.

釧路市立博物館. 1984. 道東海岸線総合調査報告書. 釧路市立博物館, 釧路.